

つながり、知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（3年次）
～子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようになるための教師の働きかけを通して～

1. 子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

(1) 基本的なつなぎ方を指導し、全員ができるようにする

本題材について知らせた後、導入時には、基本的なつなぎ方として2つのつなぎ方を伝えておく。2つとは、①前つなぎ、②後ろつなぎ（下記参照）である。それらを知識として最初に指導しておくことで、どの児童も「わたしは、このつなぎ方をやってみようかな。」と、自分の試したいつなぎ方を選択することができる。このように、自分の考えをもちやすい状況をつくっておくことで、課題解決への意欲を高める。

また、2つのつなぎ方を組み合わせて自分なりに表現したり、それらを発展させ大きな作品に広げたりしていくなど、活動の中でこれらの知識を習得・活用し、活動の幅を広げていくことができる。



①前つなぎ



②後ろつなぎ

(2) 試す時間を取り、イメージを膨らませる

本単元では、洗濯ばさみを触った感じを基に、自分のイメージをもちながら、どのように活動するかについて考えている児童の姿を評価していきたい。そのため、2つのつなぎ方について指導した後は、それらのつなぎ方を自由に試す時間を十分にとる。そして、これからどんなことができそうかを全体で共有し、どのように活動するかについて思いをもたせる。ここでは、「もっとたくさんの洗濯ばさみを使うよ。どんなことができそう？」などと発問し、洗濯ばさみと関わり膨らみ始めた発想を共有することで、児童一人ひとりに活動の見通しをもたせることができるようにする。

2. 子どもが友だちの表現に「価値」を見出すことができるようになるための働きかけ

(1) 児童の表現を見取り、ねらいに沿って価値づける

活動している児童の姿として、洗濯ばさみをつなぐときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いているかどうかを見取っていくようにする。活動中の児童には、「これからどんなふうにつないでいくの？」と問いかけ、活動の見通しを尋ねたり、気づかせたりする声かけをする。また、規則性のある形や色を工夫している作品など、形や色に着目して作っている児童を見取って価値づける声かけをし、周りの児童に広げていく。

後半では、工夫している表現を全体で取り上げ、友達の商品のよさについて考える時間をとる。このとき、最初と比べて作品が大きくなっていることから、全体を見ることはできてもつなぎ方などの部分的な工夫に着目させるのは難しい。また、児童の商品は常に形が変化していくと思われる。そのため、価値付けたい表現を見取ることができても、全体で共有する時間までには形が変わり、その表現を共有することができないことも予想される。そこで、タブレットで随時、児童の様子や作品を撮影して残す

ようにしていく。そうすることで、全体で共有する際に、部分的な表現も提示することができるので、視点をしぼって価値を見出ししていくこともできる。また、形が変わったとしても写真で残しておくことで、このときに提示することができる。

(2)「共有」の場面を設定する

本時の終末では、工夫を共有する。その際には、「洗濯ばさみをつないでみて、どんなことができた？」と問いかける。1年生の発達段階では、「～という並べ方やつなぎ方をしたら、～みたいな形ができた。」というような過程を含めての気づきを表現することは難しい。そのため、「まるい形ができた。」と答える児童がいれば、「どうやって並べたの?」「どうやってつなげたの?」などと問い返したり、「いっぱいつなげることができた。」と答える児童がいれば、「つなげていたら、どんな形になった?」などと問い返したりすることで、児童の思いを引き出し聞き取っていく。そうすることで、どんなつなぎ方をしたのか、それらを通してどんな形や色に気付いたのか、という過程が共有できる。この共有の時間により、自分の伸びを実感できたり、作品においての自己の表現の変容を自覚できたりする。さらに、次の活動への展開にもつなげたい。

また、この時にタブレットで撮影した児童の作品も提示し、「どんな工夫をしているかな?」と問いかける。ここで、児童同士で評価をする時間を取り、自分とは違う形に気づいている友達や、色にまで気づいている友達の作品に新たな価値を見出せるようにしたい。また、「まねしてみたいつなぎ方があったら、次の時間に試してもいいよ。」などと声をかけ、友達の表現でよかったところは、取り入れてもよいことを伝え、活動の幅がさらに広がるようにしたい。

第1学年B組図画工作科学習指導案

1. 題材名 いっぱいつかってなにしよう（せんたくばさみで）

2. 指導観

本題材は、身近にある同じ形や種類の材料を並べたりつないだりして造形遊びをする活動である。使用する洗濯ばさみは、子どもの身近にある材料であり、接着の必要なく簡単につないだりはずしたりができ、形も固定しやすいというよさがある。また、同じ活動を繰り返す中で児童が自然に規則性のある形をつくりだしやすいため、思い付いたことをいろいろ試したり、自分の思いに合うように試行錯誤したりすることができる。同じ材料を使うので、友達の活動を見て自分の作品と似ているところやちがうところにも気づきやすく、友達の作品のよさにも気づいていける題材だと考える。子どもが、活動を通してつくりながら思い付いたり、結果にこだわらず様々な方法を自由に試したりしてほしいと考え、本題材を設定した。

本学級の子どもは、意欲的に図画工作科の学習に取り組んでいる。これまでに身近な材料を使った題材「いっぱいつかってなにしよう（ペットボトルのキャップで）」では、ペットボトルのキャップを並べたり積んだりすることで、思い付いたことを試したり、いろいろな形や触った感じなどを基に自分のイメージをもったりする活動をおこなってきた。また、友だちと作品を見合ったり話し合ったりすることで、さらに発想を広げて表現する姿も見られた。本題材でも、材料や友達と関わることで、自分の思いをはっきりさせたり、新たに発想を広げたりするようにしたいと考えている。

指導にあたっては、まずたくさんの洗濯ばさみを提示しながら本題材について知らせ、洗濯ばさみに対する日頃のイメージをたくさん引き出すようにする。つくるものは、たくさんの洗濯ばさみを使うことで、作品が徐々に広がっていく感じや立体感が出てくる様子を感じられるようにする。並べ方やつなぎ方については、方法がわからず、すぐに活動に入れない児童がいることが予想される。そのため、知識として基本的な並べ方やつなぎ方を知る時間を設けることで、全員の児童がある程度活動に見通しができるようにしておく。また、友だちと協力してつくりようとする児童もいると予想される。その際は、友だちとつくることで生み出された新しい形や、一人では気付かなかった工夫などを価値付けていくようにする。活動の途中には、洗濯ばさみでできた形を友達と見合う時間を設け、様々な並べ方やつなぎ方を共有し広げることで、友だちのアイデアをヒントにして更に活動が展開できるようにする。最後に、再度友だちと作品を見合う時間を設け、作品の面白さや工夫を認め合うことができるようにする。

本時は、洗濯ばさみでできる並べ方やつなぎ方をいろいろと試しながら、形や色に気付いていく時間である。最初に、洗濯ばさみでどんなことができそうかを問い、身近にある題材に対する児童のイメージを引き出す。そして、活動に入る前に、基本的な並べ方やつなぎ方として、①前つなぎ、②後ろつなぎの2つを全体で指導しておき、全員が活動に見通しをもてるようにしておく。活動中、発想が広がらず、どう進めていけばよいか困っている児童には、似た活動をしている児童を紹介するなど、児童同士での問題解決を促す支援を行う。また、友達と協力してつくりようとする児童が見られた場合は、それを認め、活動の幅を広げられるようにする。活動の途中では洗濯ばさみでできた並べ方やつなぎ方、形などを発表し、全体で工夫を共有する時間を設ける。また、活動中にタブレットで撮っておいた作品をテレビに映し、「どんな工夫をしているかな？」と問いかけることで、児童同士でも工夫を見つけられるようにしておく。ここでは、洗濯ばさみを自由につないでいく中で変化していくいろいろな形や、同じつなぎ方を繰り返すと、規則性のあるきれいな形や色をつくり出せることなどに気付いた児童、友達とつくることで、大きな作品がつかれることに気付いた児童などを価値付けるようにする。また、「まねしてみたいつなぎ方があったら、次の時間に試してもいいよ。」などと声をかけ、友達の表現でよかったところは、取り入れてもいいことを伝え、活動の幅がさらに広がるようにしたい。本時の最後は、「まだまだ洗濯ばさみがいっぱいあるよ。」と投げかけ、準備して隠しておいた残りの洗濯ばさみを見せる。「もっともっとならなくと、どうなるかな？」と問いかけることで、「もっと大きくできそう！」などの児童の思いを引き出しながら、次の時間の見通しを持たせて本時を終えるようにする。

3. 目 標

- (1) ・洗濯ばさみを並べたりつないだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
 ・洗濯ばさみに十分に慣れるとともに、並べたりつないだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。
- (2) ・洗濯ばさみのいろいろな形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。
 ・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) ・楽しくたくさん洗濯ばさみを基に、思い付いたことを試す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯ばさみを並べたりつないだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 ・洗濯ばさみに十分に慣れるとともに、並べたりつないだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、洗濯ばさみのいろいろな形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、洗濯ばさみやつくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりだす喜びを味わい楽しくたくさん洗濯ばさみを基に、思い付いたことを試す学習活動に取り組もうとしている。

5. 指導と評価の計画 (全2時間)

時数	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				
		知 技		思		態
		知識	技能	発想や構想	鑑賞	
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯ばさみに触れ、思い思いに並べたりつないだりする。 ・洗濯ばさみを並べたりつないだりしながら、できる形や色を見付けている。 ・洗濯ばさみの形を生かしながら並べたりつないだりする活動を広げる。 	◎ 観察 対話 作品	○			↓ ◎ 観察 対話 作品 ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯ばさみをどんどん並べたりつないだりしながら、やってみたいことを思い付いている。 ・洗濯ばさみの扱いに慣れ、感覚を働かせながら、並べ方やつなぎ方を工夫している。 ・洗濯ばさみをどのように工夫して並べたりつないだりしたのかを友達と伝え合う。 ・洗濯ばさみを並べたりつないだりしてできた形や色の面白さを感じ取っている。 	○	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品 ワークシート	

○ … 題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎ … 題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6. 本時の指導（1／2時間）

- (1) 目 標 ・洗濯ばさみを並べたりつないだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付く。
- (2) 評価規準 **知**・洗濯ばさみを並べたりつないだりしながら、できる形や色を見付けている。（観・対・作）
- (3) 準備物（教師）・洗濯ばさみ ・かご ・タブレット ・テレビ ・コーン
- (4) 展 開

学習活動	○教師の働きかけ □評価規準（評価方法）
<p>1. 洗濯ばさみに触れる。</p> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○最初に、2つの洗濯ばさみを見せ、本時の題材を知らせる。</p> <p>○班ごとに、かごに入れた洗濯ばさみを配る。</p> <p>○1人2つずつ洗濯ばさみを手に取らせ、触れさせる。「どんなことができるかな?」と問いかけ、2つの洗濯ばさみをつないでいるような児童がいれば、全体で取り上げ、課題をつかませるようにする。</p>
<p>いっばいのせんたくばさみをつないでみよう</p>	
<p>3. 洗濯ばさみの基本的なつなぎ方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんだんつなげたら長くなりそう。 ・いっばいつなげたら大きくなりそう。 ・もっといっばい使ってつなげたいな。 	<p>○活動の流れを書いたものを掲示し、見通しをもって活動ができるようにする。</p> <p>○<u>基本的なつなぎ方2つを伝え、それらから自分が試したいつなぎ方を選択できるようにする。</u></p> <p>○<u>洗濯ばさみの数を1人10個に増やし、試す時間を取る。ここでは、「どんだんつないでいくと、どんなことができそう?」と問いかけ思いついたことを共有することで、活動の見通しをもたせるようにする。</u></p> <p>○隠しておいた大量の洗濯ばさみを見せ、児童の課題解決への意欲を高める。また、めあてに「いっばいの」という言葉を付け足すことで、たくさんつないでいくことを強調する。</p>
<p>4. たくさんの洗濯ばさみを使って、活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上につないだら、高くなったよ。 ・同じつなぎ方にして、長くしてみよう。 ・緑色ばかりつないでみようかな。 ・青色と白色を順番につないでみよう。 ・隣の友達とつなげてみよう。 	<p>○活動するときのきまりを確認しておく。</p> <p>○つなぎ方の工夫、形や色などへの気づきに対する捉え方にはどのようなことがあるかといった観点で児童の活動を観察していく。</p> <p>○活動している児童に、「これからどんなふうにつないでいくの?」と問いかけ、活動の見通しを尋ねたり、気付かせたりする声かけをする。</p> <p>○規則性のある形や色を工夫している児童がいれば、価値付ける声かけをし、周りの児童に広げるようにする。</p> <p>○困っている児童には、似た活動をしている児童を紹介するなど、児童同士での問題解決を促す支援を行う。</p> <p>○特に全体で取り上げたい工夫や変容が見られる児童の作品は、タブレットで撮っておき、後に共有できるようにしておく。</p> <p>知 洗濯ばさみを並べたりつないだりしながら、できる形や色を見付けている。（観察・対話・作品）</p>
<p>5. できたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ向きにつないでいくと、まるい形ができた。 ・いろんな方向につなぐと、木みたいな形ができた。 ・はさんでいくと、高くなってタワーができたよ。 ・青いのと白いのを順番につなぐときれいだよ。 ・友達と一緒に作ると大きい形ができたよ。 	<p>○<u>最初の基本的な2つのつなぎ方の写真と比較し、作品の変容を自覚できるようにする。</u></p> <p>○<u>「どんなことができた?」と問いかけ、自分の作品について話をさせることで、自分の伸びを実感できたり、自己の変容を自覚できたりするようにする。また、周りの友達のつなぎ方の工夫を知り、自分のイメージをさらに広げていけるようにする。このとき、活動中に撮っておいた写真をテレビに映し、適宜補助的に活用する。</u></p> <p>○児童の発言に対しては、「どうやってつなげたの?」、「つなげていったら、どんな形になった?」と問い返しをすることで、できた形だけでなく、どんな感覚や行為からどんな自分のイメージ</p>

<p>6. 次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、〇〇さんのつなぎ方をまねしてみよう。 ・もっとたくさんつないで、もっと大きい形にしたいな。 	<p>をもったかという過程が言語化できるようにする。</p> <p>○隠しておいたさらに大量の洗濯ばさみを見せ、次時はさらに大きな形をつくっていくことを伝え、見通しをもたせる。</p>
---	--

7. 板書計画

いっぱいかってなにしよう

いっばいの

せんたくばさみをつないでみよう

<p>①ためす</p> <p>②はっぴょう</p> <p>③つくる</p> <p>④できたこと</p>	<p>まえつなぎ</p> <p>写真</p> <p>うしろつなぎ</p> <p>写真</p>	<p>できたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなじむきにつなぐ → まるいかたち ・いろんなほうこうにつなぐ → 木みたいなかたち ・上につなぐ → タワー ・あおいのと白いのをじゅんばんにつなぐ → きれい
---	--	---